

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K13383

研究課題名（和文）「士大夫」阪口五峰からみる明治漢詩

研究課題名（英文）Chinese poetry of the Meiji era seen from Gohoh Sakaguchi

研究代表者

田 春娟（Tian, Chunjuan）

新潟大学・現代社会文化研究科・博士研究員

研究者番号：60743630

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、明治漢詩人阪口五峰の没後に編集された唯一の個人漢詩文集『五峰遺稿』で知られる五峰を中心とする人物関係に着目し、五峰と交友関係にあった尾崎行雄、吉田東伍、巖谷一六、鱸松塘、小野湖山、田邊碧堂他の人物が如何に漢詩・贈答詩を通じ、互いの漢詩作詩に影響を与えたかについて、彼らに関連する資料に関して、図書館、資料館、博物館等で調査を行い考察した。それによって、近代文学としての明治漢詩の実態について把握することを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、個人漢詩集『五峰遺稿』で知られる阪口五峰を中心とした交友関係に着目するだけでなく、彼らの漢詩作品の分析を通じて、如何なる文学創作を行っていたのかを明らかにしてゆくものである。本研究では、明治漢詩人・明治政治家といった両面を持つ五峰からしか検証できない新たな解釈を提示しており、さらに、個人漢詩集をはじめとして、交友関係に関する多くの資料についても考察を及ぼしている。その成果は、漢詩と関わりのある、明治の様々な領域の分析にも役立つものと考えられる。また、本研究では、本格的な漢詩作品論に必要な重要資料を紹介し、明治漢詩研究領域に限らず人文歴史研究の領域においても活用し得ると考える。

研究成果の概要（英文）：In this study, I focused on the personal relationship centered on Gohoh Sakaguchi, who is known as the author of "Gohoh Ikoh" which is the only personal collection of Classical Chinese poetry compiled after the death of Gohoh, who is Meiji Chinese-poet. I investigated materials of libraries, museums, etc. regarding Gohoh and such as Yukio Ozaki, Togo Yoshida, Ichiroku Iwaya, Shoto Suzuki, Kozan Ono, Hekido Tanabe, and how they were influenced each other's Classical Chinese poetry through Classical Chinese poetry and exchanged poems. By doing so, I tried to grasp the reality of Meiji Classical Chinese poetry as modern literature.

研究分野：日本文学

キーワード：漢詩 贈答詩 阪口五峰 吉田東伍 尾崎行雄 鱸松塘 巖谷一六 小野湖山

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究で取り上げる対象は『五峰遺稿』(坂口献吉編輯、大正14年)である。阪口五峰(1859~1923、本名仁一郎、郡会議員、県会議員、衆議院議員8回、憲政会新潟支部長・政治家。坂口安吾の父)は明治漢詩壇の泰斗・森春濤の地方門人である。その詩作は当時、唯一の漢詩雑誌『新文詩』に断続的に掲載された。彼は中央漢詩壇と新潟漢詩壇との仲介に努めている。明治漢詩壇だけではなく、大正漢詩壇でも、国分青厓や田邊碧堂らとともに『大正詩文』の顧問になるほどの重要な位置を占めている漢詩人である。

五峰に関しては親族、友人、門下生による回想録『明治大正北越偉人の片鱗』(廣井一編述、昭和4年)『五峰餘影』(坂口献吉、昭和4年)が出ている。『明治大正名詩選(後編)』(アトリエ社、昭和12年)や『明治文学全集 62 明治漢詩文集』(筑摩書房、昭和58年)では、五峰の詩作が評価されている。本格的な研究は坂口守二(論文三点)や岡村浩(論文二点)などによって始まった。坂口の場合は、主に五峰の少年時代の漢学学習や文人との交流、五峰の日常などに注目し、分析している。岡村の場合は、主に五峰の印癖や遺墨の書風などについて考察している。岡村は五峰が「政界に身を置きつつ多くの人物と交わりを結ぶ中で、生涯彼が漢詩を交流の媒体として片時も手離さなかつたことは特筆すべき」(「越後路の篆刻家・山田寒山」)、『新潟大学教育人間科学部紀要』(平成10年)であると指摘しているし、「五峰の詩の特徴として雄大なスケールである点が魅力的で、これ程の気概に満ちた内容は日本の規模の存在として誇ってもよいとの示教を専らより受けた」(「阪口五峰」としての文人像)、『坂口安吾生誕百年祭 阪口五峰を中心とする文人の魅力』平成18年)とも記している。

以上のように五峰に関する研究はいくつか発表されているが、人物に関する関心が主であった。私は五峰の漢詩作品のそのものを丁寧に読み解くことで漢詩人としての五峰を全体的にとらえようと考えた。私は五峰に関する博士論文を平成26年に完成した。博士論文は五峰の詩を森春濤との関係を基礎にして三期に分け、それぞれの時期の詩の代表的なものを取り上げ、その訓読を行い、典故についての詳細な注釈を付し、現代日本語に訳し、五峰の生涯と照らし合わせた内容解説を施し、中国や日本のこれまでの漢詩との影響関係を調べ、それぞれの詩の詩風とその変化を明らかにした。綿密な作業によって五峰詩の全体像を明らかにしたのである。そして、五峰の詩が全体としては「文人」の詩というよりも「士大夫」的の詩の様相を呈していることを明らかにした。

博士論文を執筆する中で気がついたことで、改めて取り上げさらに検討を深めたいと思うテーマがある。それは『五峰遺稿』の中で、「贈答」というジャンルの詩に関することである。「贈答」詩は全392首の中176首有り、全詩集のおよそ半分にのぼる。それは明治時代に生きる政治家と漢詩人という両面を持つ五峰自身と切っても切れない深い関係があると思われる。本研究は、『五峰遺稿』から知られる五峰をめぐる人物関係に着目し、彼らの間に取り交わされた漢詩を具体的に検討し直し、彼らは如何に漢詩を通じ、如何なる漢詩作詩に影響を与えたかを明らかにするものである。

ここでは、合山林太郎と牧角悦子の研究に着目する。合山は著書『幕末・明治期における日本漢詩文の研究』(和泉書院、平成26年)では、漢詩文は、幕末・明治期において我が国における主要な文学様式の一つであり、漢詩人たちを中心に巨大な文化圏を形成していた。近世期以降、蓄積された詩学の伝統のなかでの技術的成熟、近代という新たな社会がもたらす環境の変化、様々な要素が複雑に絡み合うこの時期の漢文学の動向を、数多くの新資料を用いて読み解く。

牧角悦子は「[特別寄稿]日本漢詩の特質 中国詩歌の受容と日本の抒情性について」(『日本漢文学研究』二松学舎大学21世紀CEOプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築(8)」平成25年)では、乃木希典と夏目漱石の漢詩を取り上げ、この二人の漢詩が「風景」と抒情とが融合した漢詩ではあるが、「士大夫の意思表示」といった漢詩ではないと指摘している。

私は合山のような大きな視点による成果を参考にしながら、改めて一人物の漢詩文集に注目し、新潟の明治の文学状況を掘り起こしたいと考えている。また、牧角論を参考にすれば、私は『五峰遺稿』のほとんどの作品はむしろ「士大夫の意思表示」の漢詩であると考えている。五峰漢詩から知られる人物を通じ、「詩の友」、「書の友」、「政の友」といった交友関係を如何に漢詩という文学様式で表現されているか。彼らの間で如何なる作詩・詩論などがあつたのかを明らかにするのは明治漢詩研究の「氷山の一角」を知ることができると考えているし、「氷山の一角」から明治漢詩の特性がうかがえる。それらに関する資料調査は、明治漢詩を把握するために不可欠と考えられる。

2. 研究の目的

(1)本研究は、『五峰遺稿』で知られる五峰を中心とする人物関係に着目し、五峰と交友関係にあった尾崎行雄、吉田東伍、巖谷一六、鱸松塘、小野湖山、田邊碧堂他の人物に関連する文献資料の調査整理を主たる目的とした。

(2)特に五峰と尾崎行雄、吉田東伍、巖谷一六、鱸松塘、小野湖山、田邊碧堂他の人物との贈答詩に注目し、社交のためのツールとして、どのような特性を持っていたかについて検討してゆく。

3. 研究の方法

(1)五峰と交友関係にあった尾崎行雄、吉田東伍、巖谷一六、鱸松塘、小野湖山、田邊碧堂他の人物に関連する文献資料の所蔵機関それぞれの調査を行うこと。

(2)必要性重要性を勘案して、複写を得ること。

(3)古書市場に関連資料が出た場合に、購入すること。

(4)上記によって収集した資料に関して、整理し、場合によっては考察を加え、個人漢詩集、伝記等と照合しながら検討し、公表すること。

4. 研究成果

(1)阪口五峰と吉田東伍に関する「贈答詩」の調査：

吉田東伍『松雲詩草』の目次を整理した。

当初計画段階では、把握していなかった所蔵機関・吉田文庫と阪口五峰の漢詩二首の確認ができた。特に年賀状二枚の中の一枚にて、阪口五峰の漢詩二首(七言絶句)が新たに判明した(『五峰遺稿』に未収録)。

阪口五峰と吉田東伍との交流は、書簡や年賀状にとどまらず、吉田東伍から阪口五峰に漢詩集の添削を依頼する関係であることが新たに分かった。

(2)阪口五峰と尾崎行雄に関する「贈答詩」の調査：

二人の漢詩による交流を確認することができた。

阪口五峰は尾崎行雄『穹堂詩存』(一部分)の評者になっていることを確認できた。

神奈川県相模原市にある尾崎穹堂記念館、三重県伊勢市にある尾崎穹堂記念館で訪問調査

当初計画段階では、把握していなかった所蔵機関・相模原市立博物館で寄贈された資料文献900点を調査した。

『尾崎行雄全集』、『穹堂・尾崎行雄の生涯』、『穹堂 この人を知ろう 尾崎行雄ものがたり』の入手ができた。

(3)阪口五峰と鱸(鈴木)松塘に関する「贈答詩」の調査：

当初計画段階では、把握していなかった所蔵機関・館山市立博物館での資料調査ができた。

『安房先賢遺著全集』、『安房先賢偉人傳』の入手ができた。

(4)阪口五峰と巖谷一六に関する「贈答詩」の調査：

資料『一六遺稿』、『巖谷一六漢詩文稿』、『巖谷一六漢詩文稿』の入手ができた。

『一六遺稿』乾の中、「新潟阪口五峯來京同人相謀招飲星岡茶寮五峰有贈錦山詩即次其韻」と題する七言律詩一首、「五峰招飲酒間疊前年詩韻」と題する七言律詩一首を発見した。

『巖谷一六漢詩文稿』巻二の中、「新潟阪口五峯來京、同人邀飲紅葉館、席上次矢土錦山韵以贈。」と題する五言律詩一首を発見した。

『巖谷一六漢詩文稿』巻三の中、「阪口五峯將歸、招飲于河長樓留別、席上三疊前韵以送。五峯攜來越妓二人、歌舞助歡。」と題する七言律詩一首を発見した。

(5)阪口五峰と日下部鳴鶴に関する「贈答詩」の調査：

国立国会図書館等での資料調査イ『鳴鶴先生詩稿』ロ『鳴鶴詩稿集』ハ『西征小稿』ニ『少年学術 共進会』

(6)阪口五峰と巖谷一六に関する「贈答詩」の調査：

新潟県立図書館にて『新潟新聞』の調査による明治三四年(一九〇一)一〇月一日「詞林月旦」に、巖谷一六の「將遊佐渡、重疊前韻、贈五峯索和、是夜中秋」と題する七言律詩一首を発見した。

『新潟新聞』明治三四年(一九〇一)一〇月二六日「詞林月旦」に、巖谷一六の「松風亭雅集酒間戲賦」と題する七言律詩二首を発見した。

『新潟新聞』明治三四年(一九〇一)一〇月三〇日「詞林月旦」に、「將赴酒田、五峯君招飲南邊樓為別、醉中又疊前韻率作」と題する七言律詩一首を発見した。

(7)阪口五峰と小野湖山に関する「贈答詩」の調査：

資料図書『近江が生んだ漢詩人 小野湖山』の入手ができた

『新新文詩』第十集にある五峰「讀湖山樓十種集」詩作の調査ができた

『湖山樓十種』、『花月新誌』それぞれの『賜硯詩』に関する文献調査ができた

(8)阪口五峰と田邊碧堂に関する「贈答詩」の継続調査：

資料図書『漢詩人田邊碧堂』の入手ができた

当初計画段階では、詳細を把握していなかった『凌滄集』に収録された田邊碧堂「舟中無事作

懐人絶句」(七言絶句一首)にある五峰への詩作を確認することができた。
『壮行集』にある五峰「送田邊碧堂游禹域」詩作に関する再確認ができた

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田春娟	4. 巻 25
2. 論文標題 研究ノート・漢詩人阪口五峰と田邊碧堂	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新潟県文人研究	6. 最初と最後の頁 43-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田春娟	4. 巻 24
2. 論文標題 漢詩人阪口五峰と小野湖山 五峰「讀湖山樓十種集」（『新新文詩』第一〇集）から読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新潟県文人研究	6. 最初と最後の頁 179-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田春娟	4. 巻 23
2. 論文標題 漢詩人阪口五峰と巖谷一六 『五峰遺稿』と『一六遺稿』の贈答詩から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟県文人研究	6. 最初と最後の頁 155-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田春娟	4. 巻 17
2. 論文標題 漢詩人阪口五峰と巖谷一六と矢土錦山 『新潟新聞』、『巖谷一六漢詩文稿』、『錦山遺稿』の贈答詩を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 表現文化研究	6. 最初と最後の頁 (1)-(19)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田春娟	4. 巻 22
2. 論文標題 漢詩人としての尾崎行雄 漢詩人阪口五峰との関わり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新潟県文人研究	6. 最初と最後の頁 101-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田春娟	4. 巻 16
2. 論文標題 漢詩人阪口五峰と鈴木(鱸)松塘-二人の贈答詩を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 表現文化研究	6. 最初と最後の頁 (7)-(17)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田春娟	4. 巻 21
2. 論文標題 漢詩人としての吉田東伍 漢詩人阪口五峰との関わり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新潟県文人研究	6. 最初と最後の頁 118-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田春娟	4. 巻 20
2. 論文標題 「吉田東伍『松雲詩草』と旗野廉堂『幡野刈草廉堂遺稿』の目次」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『新潟県文人研究』	6. 最初と最後の頁 123-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田春娟
2. 発表標題 漢詩人阪口五峰と巖谷一六 『五峰遺稿』、 『一六遺稿』、 『巖谷一六漢詩文稿』の贈答詩から
3. 学会等名 表現文化研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田春娟
2. 発表標題 『新潟新聞』九千号から読む阪口五峰と小野湖山
3. 学会等名 表現文化研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田春娟
2. 発表標題 漢詩人としての阪口五峰 鱸松塘との関わり
3. 学会等名 表現文化研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田春娟
2. 発表標題 漢詩人阪口五峰と鈴木松塘（鱸松塘） 五峰の「賀夢詩」を中心に
3. 学会等名 表現文化研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------